

## 遠州灘陸棚上～遠州トラフの堆積物試料：KT-08-30 次航海報告・その1

## Core samples obtained from off the Enshu coast: Preliminary Report of R/V Tansei-maru KT-08-30 cruise (Part 1)

# 白井 正明 [1]; 大村 亜希子 [1]; 伊藤 拓馬 [2]; 南雲 直子 [3]; 川村 喜一郎 [4]; 大石 雅之 [5]; 若林 徹 [3]; 丹羽 雄一 [3]; 亀尾 桂 [1]

# Masaaki Shirai[1]; Akiko Omura[1]; Takuma Ito[2]; Naoko Nagumo[3]; Kiichiro Kawamura[4]; Masayuki Oishi[5]; Toru Wakabayashi[3]; Yuichi Niwa[3]; Katsura Kameo[1]

[1] 東大・海洋研; [2] 信州大・理・山岳環境; [3] 東大新領域環境; [4] 深田研; [5] 首都大・都市環境・地理

[1] ORI, Univ. Tokyo; [2] Mountain and Environmental Sci., Shinshu Univ.; [3] Environmental Studies, KFS, UT; [4] FGI; [5] Dept. of Geography, Tokyo Metropolitan Univ.

学術研究船淡青丸 KT-08-30 次航海が、2008 年 11 月 13~17 日（東京港-鹿児島港）に実施された。本航海の主要目的は、コア試料の解析を通じて遠州灘沖、熊野灘沖それぞれにおける砂粒子の移動過程を明らかにすることである。深海海底層のコア試料上部は基本的に含水率の高い泥からなるため、採取後時間の経過と共に乾燥もしくは水分と堆積粒子の分離が進み、採取時の層位や堆積構造などの情報は画像および記載データとして保存する以外難しいというのが実情であった。そこで今回、コア試料データの保管の一例として、コア半割面より剥ぎ取り標本を採取した。剥ぎ取り標本は水分含有率の高い海底層の堆積物試料でも問題なく作成可能であり、コア採取時の層位情報を良く保存すると共に、剥ぎ取り標本・半割面の双方とも、従来よりも圧倒的に明瞭な堆積構造を観察することができる。またポリウレタン樹脂は基本的に剥ぎ取り時にすべて除去されるので、コンタミネーションの心配も少ない。結論として、剥ぎ取り標本は深海コア試料の記載および保管にも際めて有効と言える。発表では遠州灘沖で採取された剥ぎ取り標本と、各コア試料の簡単な解説を示す。